

緊急で行った Onlay patch CABG 3 枝+AVR の 1 症例

林田 智博¹、吉田 賢司¹、末澤 孝徳¹

¹福山市民病院

症例は 62 歳、20 年の透析歴がある男性。維持透析先より貧血進行、胃痛により消化器内科に紹介されたが、外来にて嘔吐後に CPA となった ROSC 得られるも、ACS が強く疑われ、精査にて冠動脈広範囲高度石灰化を伴う重症 3 枝病変及び重症大動脈弁狭窄症の診断となった IABP 留置の上、緊急で CABG 3 枝、AVR を施行した。冠動脈石灰化は連続しており、側壁などに 2mm 程度の spot が数力所あるのみであった。3 枝共に spot を開け、一部内膜摘除しつつ全て onlay patch で吻合し、なんとか手術を乗り越え、独歩退院された。緊急病態かつ状態の悪い患者に手間のかかる吻合という試練の症例であり、報告する。